

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		消防車両器具維持管理事業		担当課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間
	施策	消防・救急の充実		種別
	基本事業	消防体制の強化		市民協働
予算科目コード		01-090102-03 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 消防車両等の点検・整備を実施し、災害時における消防活動を迅速に行う。 2箇月に1回、各分団ごとに車両と機械器具等の点検を実施する。今年度は、8台の消防車両の車検を実施する。
消防団が迅速かつ効率的な活動を行うため、消防車両及び消防用可搬ポンプ等の維持管理を実施している。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
消防団に配備した消防車両及び機械器具の維持管理を行い、災害時の緊急出動に備える。	
（参考）基本事業の目指す姿	
火災現場への迅速な出動や消火が行える体制を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
消防車両15台中12台が購入から10年以上経過しており、今後、修繕費の増加が見込まれている。災害時の緊急出動に備え迅速に現場に到着し活動できるよう、日常的な点検が必要である。	7月 指令車車検 11月 7・11分団消防車両車検 12月 広報車、1・9・10・12分団消防車両車検 消防車両の更新は15年が理想だが、車両の品質向上等により十分使用できることから、使用期間をポンプ車においては20年とし、更新期間の長期化を図っている。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
2箇月に1回、各分団ごとに車両と機械器具等の点検を実施し、適切な維持管理に努めている。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	消防車両の修繕料や車検代などの経費である。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度を取組（評価、課題への対応）
消防団員自らが消防車両や機械器具の点検を行い、災害時の緊急出動に備えた。	災害時の活動に備えるため、車両や機械器具の点検整備を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
消防車両台数（台）	16.00	15.00	15.00	15.00	15.00
消防車両の点検整備回数（回）	96.00	90.00	90.00	90.00	90.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	災害時等の緊急出動に備えるための消防車両や機械器具の維持管理経費のため、成果に変動はない。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	災害時の緊急出動と円滑な活動を行うため、車両と機械器具の維持管理を継続していく。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	18,852	2,305	1,651	2,085	2,085
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	18,852	2,305	1,651	2,085	2,085
正職員人工数（時間数）		0.00	80.00	78.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	328	320	0	0
トータルコスト		18,852	2,633	1,971	2,085	2,085

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		消防施設整備事業		担当課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間
	施策	消防・救急の充実		種別
	基本事業	消防体制の強化		法定＋任意
市民協働				
予算科目コード		01-090103-01 単独	根拠法令・条例等	消防法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 消火栓用消防用具格納箱，防火水槽，ＡＥＤ等の整備・更新を行う。 ・消防用具格納箱は，市民からの要望により設置 ・ＡＥＤ機器のパッドは2年，バッテリーは5年，本体は7年毎に更新
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
消防施設の充実により，火災発生時における迅速な消火活動や人命救助のための環境整備が図られる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
火災現場への迅速な出動や消火が行える体制を目指す。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
消火栓用消防用具格納箱等の劣化が進んでおり，消防団と消防署員で連携して調査・点検を実施している。更新対象となる格納箱等は今後増加する見込みである。	消火栓用消防用具格納箱の交換（通年） ※11月現在22箇所交換済み 防火水槽の撤去，修繕（通年） ※11月現在2箇所解体済み A E D機器の更新及び新規購入（12月完了予定） ※33台更新 老朽化に伴う消防機械器具置場の修繕等については，消防団員による詰所検討委員会を開催し，消防団の意見を取りまとめたうえで方針を決定する。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
格納箱を交換する際には，耐久性のある材質のものを使用することで，将来の予算軽減に努めている。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☒ 削減	今後も劣化した格納箱等の消防施設の更新のため必要である。 ※次年度のコストの方向性（削減）は，消防施設整備事業（交通防災課所管）に計上していた消火栓維持管理負担金について，平成29年度から上下水道課に所管替えになったことに伴う減額。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度を取組（評価、課題への対応）
設置年数が古い消防用具格納箱については腐食が進んでいるものもあり、格納箱内の用具を使用する際には錆等の影響で支障をきたすおそれもあるため、格納箱の速やかな交換が必要である。	消防団，消防署，自主防災組織等により消防用具格納箱の点検を行い，不良箇所の早期発見に努めた。また，耐用年数の経過に伴い更新した避難所（学校等）設置のA E D機器については，設置場所を屋内から屋外に変更した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
消火栓消防用具格納箱設置台数（箇所）	524.00	535.00	540.00	545.00	560.00
A E D設置台数（台）	31.00	31.00	33.00	33.00	33.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	消防用具格納箱の新設と交換を行い，消防施設等の適正な維持管理に努めた。また，学校等の避難所に設置しているA E Dの設置場所を屋内から屋外に変更したことで，人命救助における環境整備の充実を図った。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	火災時等の円滑な消火活動を行うため，消防施設（消防用具格納箱等）の整備と維持管理を継続していく。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	22,802	44,241	8,050	3,969	3,969
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	4	4	4	4	4
	一般財源	22,798	44,237	8,046	3,965	3,965
正職員人工数（時間数）		0.00	74.00	251.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	303	1,029	0	0
トータルコスト		22,802	44,544	9,079	3,969	3,969